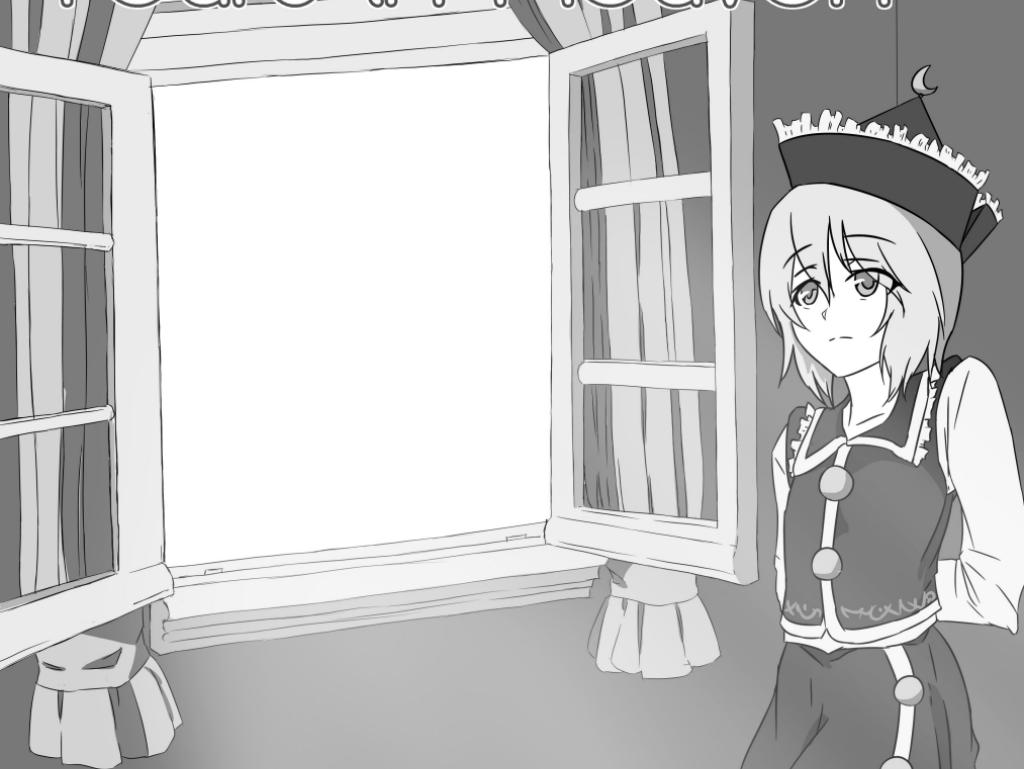


# Tears in Heaven



Written by : Pumpkin  
Illustration by : Kuro

## 【一日目】

シャツターの音に囲まれつつ、私は深々と頭を下げていた。

驚くべきことに、私たちブリズムリバー楽団は解散するそうだ。

「理由は……音楽性の違いです」

さらにも驚くべきことには、なんと音楽性の違いで解散するそうだ。こんな滅茶苦茶な編成で演奏している私たちに、音楽性が相違していない瞬間などあつたのだろうか？ 少なくとも私は記憶がない。

「ルナサさん！ 質問していいでしようか！」

「申し訳ないのですが、質問の時間は設けておりません。今回は解散を決定したことに対する報告のみの場とさせていただきたいと思っています」

質問に対し答える気なんてない。どうして解散しなきゃいけないのかなんて、そもそも私自身が理解出来ていない……いや、理解出来ていないわけでもない。理解は出来る。あまりに馬鹿馬鹿しいと思うだけで。

中身の無い言葉を一方的に述べ続けて、記者会見は終わつた。私たちは記者達の声を背に、楽屋へと足を向けた。

「一切質問を受け付けないならなぜ記者会見なんて開

いたんですか！ 横暴ですよ！」

「そうだそうだ！」

「ファンの皆さんも解散ライブがあるのかは気になつてないはずですよ！」

向こうには向こうの言い分があるのだろう。忙しい中時間を割いて駆けつけただの、こんな内容じゃ記事にならないから上司に叱られるだの、普段宣伝に協力してやつてたのにふざけるんだのなんだの——向こうにとつては正当な理由もあるのだろう。

この空間にいることが辛くてならなかつた。先頭のリリカはいつの間にか樂屋に戻つていた。メルランも戻つていた。

でも、私はゆっくりゆっくりと足を進める。無慈悲に切られるシャツター、誰かの代弁者を気取つた連中の怒号。それを受け止めることは、せめてもの責任だろう。

——ねえ、レイラ。

私は心中で呟く、迷ったときも困ったときも、いつも私は問い合わせてしまう。

決して返事をしてはくれない。私たちの妹に。